

2018年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール 全国45校の応募の中から 最優秀賞3校・優秀賞9校・特別賞1校を決定！！

ビール酒造組合(会長代表理事:高島英也)は、当組合の活動の一環として、国税庁、文部科学省、厚生労働省など関係省庁および全国養護教諭連絡協議会、全国のPTAなどの団体のご後援をいただき、日本洋酒酒造組合との共催で、全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)を対象に「2018年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」を本年6月から9月末日まで実施いたしました。

今年度は、全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)から45点の取り組みを応募いただきました。選考委員会(東ちづる審査委員長)による厳正な審査の結果、小学校部門で最優秀賞1校、優秀賞3校、中学校部門では最優秀賞1校、優秀賞3校、審査員特別賞1校、高等学校部門では最優秀賞1校、優秀賞3校、そして特別支援学校(学級)部門では審査員特別賞1校を選出いたしました。なお2部門における審査員特別賞につきましては同一校による受賞となり、全部門合計で13校を選出しております。

2018年11月23日(金・祝)に野村カンファレンスプラザ日本橋(東京)にて、各部門の最優秀賞受賞校を対象とする表彰式を開催いたしました。



野村カンファレンスプラザ日本橋(東京)で行われた表彰式／2018年11月23日(金・祝)

前列(向かって左より):大東 晃生さん、由田 彩華さん、小林 嘉人さん、大橋 一心さん、渡辺 零さん、國井 泰斗さん
後列(向かって左より): 東 ちづる審査委員長、中津 直子先生、伊藤 純一校長先生、中村 まさえ先生、
安藤 季美先生、高島 英也会長代表理事

ビール酒造組合では、2002 年度から「未成年者飲酒防止ポスター・スローガン・学校賞 募集キャンペーン」を実施し、2017 年度からは、「未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」と名称を改め、学校としての未成年者飲酒防止に向けた取り組みを全国から募集してまいりました。学校・地域で未成年者飲酒が及ぼす健康への弊害などについてのより一層の理解促進を狙いとしております。

表彰式当日は、審査委員長の東ちづるさんおよびビール酒造組合・高島英也 会長代表理事より、表彰状・副賞などが授与され、各部門の最優秀賞受賞校の代表者による取り組み発表の後、審査の講評がありました。

当組合では、今後も本コンクールを実施し、未成年者飲酒防止活動を定着させていきたいと考えております。

<高島 英也 会長代表理事 挨拶>

ビール酒造組合が日本洋酒酒造組合と一緒に、この未成年者飲酒防止を目的とする活動を開始してから、本年で 17 年目になります。まずは国税庁、文部科学省、厚生労働省、学校各関係団体、そして何よりも審査委員長を務めていただき大変お世話になっている東ちづるさん、また関係各位のご協力により、この活動が 17 年目を迎えることができたことに心から感謝申し上げたいと思います。

「未成年者飲酒防止教育“学校コンクール”」は、昨年概要を変更しています。2015 年度まではポスターやスローガンでも応募できる活動でしたが、昨年からは、もっと深めよう、実効をあげようという目的で名称も「学校コンクール」と変えました。コンクールの内容についても、学校を中心に生徒だけでなく、地域社会も巻き込み一緒になって参加していただき、学校の中で楽しい工夫をしていただくことも加えながら、全国にもっと波及効果を高めていきたいという目的で、変更しています。

各部門それぞれの最優秀賞受賞校の取り組みはどれも素晴らしい内容でした。各学校の活動に心から敬意を表します。

このように活動していただいた結果や成果を、全国の教育機関にどう活用していただくかというところを、ひと工夫、ふた工夫して未成年者飲酒防止活動の実効をあげることに繋げていきたいと思っております。

今回の審査経過も大変白熱した内容で、審査に関わっていただいた方々にも敬意を表したいと思いますし、最優秀賞に輝いた皆さま方には、心からお祝いを申し上げます。

最後になりますが、私どもの活動に参画、ご支援いただいた全国の方々、政府関係者の方々、学校関係の団体の方々に心から感謝を申し上げますとともに、私どもビール酒造組合ならびに日本洋酒酒造組合としまして、さらに活動を一步二歩と先に進めて、本当に実効のある活動にしていくべく、発展させることをお誓い申し上げ冒頭の挨拶とさせていただきます。

<東ちづる 審査委員長の講評>

皆さんおめでとうございます。そして応募してくださり、また表彰式にお越しくくださりありがとうございます。今日の発表はとても素晴らしく、内容もわかりやすく面白かったです。

昨年、これまでのポスター、スローガン、学校賞の 3 部門での募集を、学校賞のみの募集

に絞りました。その成果が今年は本当に大きいことを実感しています。皆さんの活動はどれも力が入っており、審査員は一つだけに絞ることに、喧々囂々、侃々諤々の議論で大変でした。そのため、今日が私たちにとっても、皆さんとも対面できて嬉しく、わくわくするご褒美の日になります。

この「未成年者飲酒防止教育“学校コンクール”」の取り組みは、良いことがたくさんあると思っています。一つは、正しい知識が未成年の皆さんにきちんと伝わるということ。取り組みを生徒たち自らが考えてアイデアを出し、実際に活動し、先生を巻き込んで家族や地域の人たちとも繋がりながら進めていくということは、学校の授業やクラブ活動では得られないこともあるのではないかと考えています。私が学生の時には、このような正しい知識を広めるということがありませんでした。そのため、皆さんの親御さんや先生たちは、もしかするとまだ知らないこともあるのではないかと考えています。法律で決められているから駄目なのではなく、脳や身体や精神を守るためであるということ、生徒たちから発信するということが、大きな力があると思っています。

お酒が背景にある事件や事故があった時に、精神が弱いとかお酒が悪いといったコメントをする人たちがいます。それは間違っていると私は思います。例えば刃物を使った事件や事故があった時に、刃物を作った人や売る人が悪い、刃物そのものが悪いと言われることはありませんが、お酒の場合はあります。ですが、お酒は日本の長い歴史があり、文化で伝統です。そして、専門家たちが日々より美味しくなるように研究をしています。その製造されたお酒を運ぶ人がいて、デパート、スーパー、酒屋さんなどで働く人がいて、そうして繋がりながらお酒が広がっています。お酒を通じてコミュニケーションがぐっと深まり、なかなか職場では話せないことが話せたり、商談がまとまったりといった、素敵なツールとしてもお酒は存在しています。20歳になってからのほうが長い人生ですので、上手にお酒と付き合いが欲しいと思います。

ビール酒造組合は、5社のビールメーカーで構成されていますが、この5社は競合です。切磋琢磨している競合会社と一緒にあって未成年を守るためにこのような活動をしています。企業が利益だけでなく社会に還元するために取り組んでいるということも、子どものころから知ってもらえるといいなと思います。これが本来の社会貢献をするという企業のあり方でもあるのです。

今日、表彰されたことを、これで終わりではなく、今後広めていただきたいと思います。他の学校や地域、家族など色々広めていってください。そして来年再来年と引き継がれていくよう、是非よろしくお願いいたします。

◇主催 :ビール酒造組合 ※1

◇共催 :日本洋酒酒造組合 ※2

◇後援 :内閣府、警察庁、国税庁、文部科学省、厚生労働省、(一社)全国高等学校PTA連合会、(公社)日本PTA全国協議会、全国養護教諭連絡協議会、全国高等学校長協会、全国中学校長会、全国連合小学校長会、(公社)アルコール健康医学協会

◇協力:日本教育新聞社、(公財)日本学校保健会

※1ビール酒造組合とは…ビールメーカー5社で構成される特別認可法人です。

※2日本洋酒酒造組合とは…ウイスキー等メーカー72社で構成される特別認可法人です。

「2018 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」受賞校一覧

●小学校部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	利根町立文小学校	茨城県	児童保険委員会と取り組む飲酒防止教育
優秀賞	川口市立差間小学校	埼玉県	第2期 保護者とともに考える 未成年者飲酒防止教育
優秀賞	柳川市立皿垣小学校	福岡県	健康な生活を実践する子どもをめざして ～ユニバーサルデザインの視点を 生かした飲酒防止教育～
優秀賞	横浜市立南舞岡小学校	神奈川県	体験を通じた飲酒防止教育
特別賞	該当なし	-	-

<最優秀賞>

都道府県	学校名	担当者名
茨城県	利根町立文小学校	中村まさえ

茨城県 利根町立文小学校

2017 年度、保健安全教育活動の更なる充実を目指し、学校保健委員会におけるテーマに「本校における健康教育の取り組み」を掲げ、児童・保護者・地域の実態やニーズに応じた内容への見直しを進めることとした。そのなかのひとつとして、2017 年度は児童保健委員会の活性化と健康情報発信力の向上を目的に模擬保健指導「上手に断る～お酒編～」を実践した。2018 年度も、学校・PTA・学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)等の専門家の手を携えた新たな取り組みを継続している。

<取り組み内容>

5～6 年生に行うミニ保健指導が短時間でも有意義で印象に残るものになるよう、お酒に関する事前アンケートで児童の実態に迫った。児童保健委員会活動においては、養護教諭と学級担任によるロングの模擬保健指導で「上手に断る～お酒編～」を行い、アルコールパッチテストやコミュニケーション方法、上手な断りかたのロールプレイングを体験した。結果、未成年の飲酒は「自分にも起こりうる健康課題」として捉える児童が多くみられ、これらの結果や児童保健委員の感想をもとに、指導資料を作成した。

2018 年度は模擬保健指導として「どうする？どうなる？お酒のこと」。また、「命を守る行動について考えよう」をテーマに「プッシュプロジェクト」と未成年飲酒防止キャンペーンの実施、6 年生を対象とした保健学習「飲酒の害と健康」授業補助を活動計画とした。

<発表の様子>



【小学校部門】（左より）中村まさえ先生、小林嘉人さん、大橋一心さん
（利根町立文小学校）

●中学校部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	広島市立段原中学校	広島県	ストップ！未成年の飲酒！ ～生徒保健委員会の取り組み～
優秀賞	東大阪市立縄手北中学校	大阪府	アルコールの影響を確認しよう
優秀賞	平塚市立太洋中学校	神奈川県	アルコールの害について
優秀賞	日立市立坂本中学校	茨城県	保健体育員会による飲酒防止
特別賞	野洲市立中主中学校	滋賀県	未成年者飲酒防止について考えよう

<最優秀賞>

都道府県	学校名	担当者名
広島県	広島市立段原中学校	中津直子

広島県 広島市立段原中学校

広島市南区に位置し、生徒数 428 名、17 学級の中規模校である。校区内には広島カーブの本拠地マツダスタジアムがあり、飲食店の数も多く、学校から自転車やバスで 15 分ほどで繁華街に行くことができる交通の便が良い立地である。保健委員会は各クラス男女 1 名ずつ 24 名おり、本年度から保健委員会の新しい取り組みとして、学年を縦割りにして、異年齢で交流しながら委員会活動を行ってきた。

文化祭への取り組みを考えるなかで、利便性の良い土地にある学校ゆえに、日常的に大人が飲酒している状態を目にする生徒が多いと考え、3 年生が中心となり「未成年者飲酒防止」につい

て取り組みを実施することとなった。

<取り組み内容>

7月の保健委員会では、アルコールパッチテストを実施し、3年生が1・2年生に「アルコールが体内でどのように分解されるか」と「アルコールパッチテストのやり方」を説明した。パッチテストは、皮膚が弱い人は「やらない」意思表示をするよう説明。生徒は、斑の形に机を寄せてパッチテストを実施し、皮膚の色の変化を観察し、自分はアセトアルデヒド分解能力が普通にある「白型タイプ」なのか、分解能力の低い「赤型タイプ」なのか、将来はどのようなことに気をつければいいのかを確認した。

また、飲酒状況体験ゴーグルを使用し、同一人物が、①ゴーグルなし、②ほろ酔い、③酩酊、④泥酔の4種類を体験。飲酒により平衡感覚がどのように変化するかを、紙くずをゴミ箱に入れる、線の上を歩く、字を書くなど7通りの動作で体験し、どのくらい時間がかかったかも計測した。

さらに、保健委員が全校生徒と教職員を対象に、飲酒についてのアンケートを作成。アンケート内の教職員からの「未成年者へのメッセージ」を保健委員が手書きでまとめ、掲示物を作製した。

これらの飲酒体験ゴーグルの様子や、教職員からのメッセージを保健委員がビデオで撮影。10月の文化祭では、ビデオの上映後に、アルコール依存症の親をもつ教職員から送られた手紙を朗読することとした。

<発表の様子>



【中学校部門】（左より）中津直子先生、大東晃生さん、由田彩華さん
（広島市立段原中学校）

●高等学校部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	栃木県立那須拓陽 高等学校	栃木県	未成年者飲酒防止教育への取組
優秀賞	山形県立新庄神室産業 高等学校	山形県	STOP!未成年者飲酒 ～生徒保健委員会の活動を通して～

優秀賞	東京農業大学第三 高等学校	埼玉県	STOP 飲酒 ～未成年者飲酒防止キャンペーン～
優秀賞	東京都立蒲田高等学校	東京都	アルコールパッチテスト ・飲酒体験ゴーグル
特別賞	該当なし	-	-

<最優秀賞>

都道府県	学校名	担当者名
栃木県	栃木県立那須拓陽 高等学校	安藤季美

栃木県 栃木県立那須拓陽高等学校

今年 120 年ぶりに成人年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられる改正民法が成立し、一部の生徒から「高校生からの飲酒もできるよね」との声があった。このことから、未成年者飲酒防止教育に保険委員で取り組み、校内や校外への正しい知識の発信と、勧められても「NO！」と言える力をつけたいと考えた。

<取り組み内容>

保健委員会で「映像で学ぶ未成年者飲酒防止教育教材」による学習会を実施。それらも参考にして、本校生の実態を把握するためのアンケートを全校生に実施した。その結果と課題について学校祭で発表し、全校生で共有。課題として「未成年者に飲酒をすすめる大人」に対する啓発と「NO！！」と言える子供の育成のためのリーフレットを作成した。

<発表の様子>



【高等学校部門】（左より）渡辺零さん、國井泰斗さん、安藤季美先生
（栃木県立那須拓陽高等学校）

●特別支援学校(学級)部門：受賞校一覧

	学校名	都道府県	タイトル
最優秀賞	該当なし	-	-
優秀賞	該当なし	-	-
特別賞	野洲市立中主中学校	滋賀県	未成年者飲酒防止について考えよう

<過去応募数・審査結果について>

	応募総数	中学校			高校		
		ポスター	スローガン	学校賞	ポスター	スローガン	学校賞
(第1回)	3,176	(1,933)	(672)	(-)	(133)	(438)	(-)
(第2回)	6,495	(3,273)	(2,241)	(23)	(385)	(564)	(9)
(第3回)	5,408	(3,702)	(1,131)	(23)	(238)	(310)	(4)
(第4回)	9,981	(4,951)	(2,936)	(32)	(925)	(1,125)	(12)
(第5回)	11,168	(4,388)	(4,084)	(32)	(630)	(2,020)	(14)
(第6回)	8,303	(4,801)	(1,905)	(16)	(588)	(982)	(8)
(第7回)	9,663	(5,132)	(3,084)	(54)	(682)	(700)	(11)
(第8回)	10,932	(4,524)	(3,968)	(38)	(485)	(1,908)	(9)
(第9回)	7,846	(4,403)	(1,519)	(14)	(892)	(1,014)	(4)
(第10回)	7,268	(3,568)	(1,982)	(16)	(816)	(881)	(5)
(第11回)	9,292	(3,859)	(3,109)	(18)	(756)	(1,537)	(8)
(第12回)	6,686	(1,956)	(3,257)	(11)	(587)	(871)	(4)
(第13回)	7,575	(2,038)	(3,052)	(24)	(505)	(1,938)	(17)
(第14回)	8,531	(2,421)	(3,620)	(16)	(842)	(1,625)	(6)
(第15回)	5,794	(750)	(2,795)	(10)	(417)	(1,803)	(16)

	応募総数	小学校部門	中学校部門	高等学校部門
2017年度	72	11	44	17

2018年度 未成年者飲酒防止教育学校コンクール
[小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)部門]

	応募総数	小学校部門	中学校部門	高等学校部門	特別支援学校(学級)部門
全応募数	45	8	20	16	1
一次審査	-	7	10	10	1

「2018 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」 応募要項

- ◇名称 : 「2018 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」
- ◇募集期間 : 2018 年 6 月 1 日(金)～2018 年 9 月 28 日(金)必着
- ◇応募資格 : ●全国の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)
- ◇募集内容 : ●学校での「未成年者飲酒防止」に関する取り組みを募集
- ・ビール酒造組合のツール(ゴーグルやパッチテスト)を授業内や文化祭等の学校行事で活用
 - ・ビール酒造組合の教育ツール(ビールすごろく等)を授業等で活用
 - ・学校で未成年者飲酒防止を説明するツールなどを独自に制作し授業等で活用
 - ・学校で未成年者飲酒防止を訴求するポスター制作をクラスや学年単位等で実施
 - ・校内で未成年者飲酒に関するアンケート調査を実施
 - ・保健委員会や学年、クラスの活動で掲示物を制作し、学校中に啓発活動を展開
 - ・地域の警察署や酒店等と連携し、学校で未成年者飲酒防止を考える時間を設ける
 - ・その他、未成年者飲酒防止に関わる学校での活動
- ◇応募方法 : ●書式、フォーマットは問いません。
- パンフレット裏面のエントリーシートもしくは、当日に使用されたもののコピー等でご応募ください。併せて、活動の様子がわかる写真があればご提供をお願いします(1～3点)
- ◇応募先 : 〒108-0023 港芝浦郵便局留め
「2018 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」事務局
※メールでの応募: camp@brewers.or.jp
- ◇報 賞 : 【最優秀賞 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)】
各 1 校 30 万円相当の商品
- 【優秀賞 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)】
各 3 校 10 万円相当の商品
- 【審査員特別賞 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校(学級)】
各 1 校 5 万円相当の商品
- ◇審査委員 : 共催・後援の各団体と有識者で審査員会(審査委員長: 東 ちづる氏)を構成し、
厳選なる審査の上、入選校を決定します。
- ◇発 表 : 入選校には事務局より直接ご連絡いたします。
また、ビール酒造組合ホームページ上で発表いたします。
- ◇プレゼンテーション・表彰式 : 2018 年 11 月 23 日(金・祝) 東京で開催
- ◇審査委員長: 東 ちづる氏(女優)
- 1960 年 広島県生まれ。ドラマ、CM、コメンテーターのほか、講演、エッセイ執筆など幅広く活躍。骨髄バンクやドイツ平和村などのボランティア活動を 20 年以上続け、2012 年には一般社団法人「Get in touch」を設立し理事長を務めている。主な著書に「わたしたちを忘れないで～ドイツ平和村より」、エッセイ「らいふ」。
- ◇お問い合わせ先: ビール酒造組合ホームページ : <http://www.brewers.or.jp/>
<過去の受賞作もご覧いただけます。>
学校コンクール事務局: 03-5443-1232(土・日・祝日を除く 10:00～18:00)

◇主催および共催・後援一覧：

主催：ビール酒造組合

共催：日本洋酒酒造組合

後援：内閣府、警察庁、国税庁、文部科学省、厚生労働省、

(一社)全国高等学校 PTA 連合会、(公社)日本 PTA 全国協議会、

全国養護教諭連絡協議会、全国高等学校長協会、全国中学校長会、

全国連合小学校長会、(公社)アルコール健康医学協会

◇協力：日本教育新聞社、(公財)日本学校保健会

<本件に関するお問い合わせ先>

2018 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール 表彰式 広報事務局(電通 PR 内)

担当：柏木 080-2395-9506 MAIL: masahiko.kashiwagi@dentsu-pr.co.jp

丸岡 070-1568-6919 MAIL: naoka.maruoka@dentsu-pr.co.jp